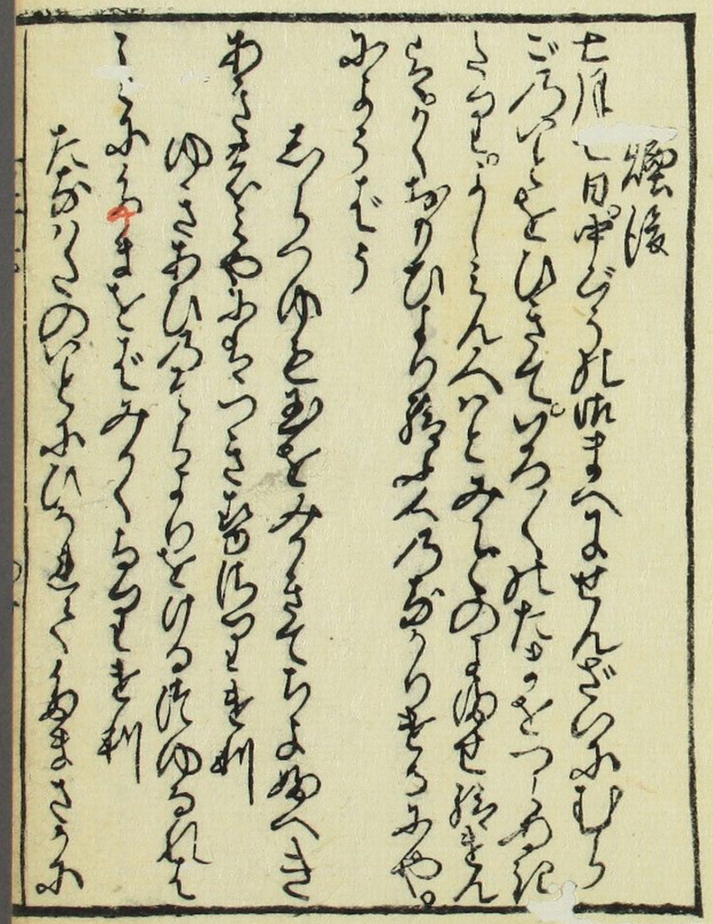
栄花物語

煙の後
松の志げ之丸

内閣文庫

内閣文庫

内閣文庫



七月十日ゆきぐれまへよせんざいふむしろ
ごろのことをひきそめてのちくれたるをつゝみ紙
にうつしたるうしろに人のをみとめてのまゝをきまん
らくくちりひとりぬるまくらもとのみやう。
みやうとうぢう
もゝちゝのゆとをみてそらよめへき
あらさまくあらつさ苔ちつとも利
ゆさわひろとうちをけるはゆるれて
こゝふるまとをみくらもを利
たかうるのとふひらまくあまさうふ

かくきこえんのうつゆをあらときうゝくてい
し・おるくこわりをまとぶおまりいちをうしし
てとくあつまるまこよるをたまつ乃ことちをね
せんこいをバ法華経とそやめるぞのぬ
むろうろうどのゝ世こゑをこそハ法花と
ゝやめ申さるゝ・ゆりませとぷうをめ
でうくよまこ法さうゆへくをぶいをうこ
しうこあわせとゝおるさゆまこうをや
つまてをぐ仏せ法ぷりのがくうわ世とくへ
ゆまちうしてくつうてひぐるしみぎうこまを
て法へありをちどせ法せ法てゆとゆゝうと

きをうゝおけてうをれうもちやゆを世法てし
ていハをうゝもたぶ世法ひてゆしおそうし
きこゝとおゆしうけうを世法ゆ。条花のやま
みゝとぶにあるゆ内裏ゝ場殿ひとゝふ
やけぬゆとくあさまゝゝれいゝ方を法ゝ年ゆ
りゆ場ゆでニ月ゆ三日のよゆぐゝやけぬさぶ
ううゆでうゝおりまゝひ百秋乃秋ゆ百秋の
くうんをんわゝぶ七仏屋くしちどぐゝうゝく
のはゆををうゝちひ乃中ゆさうあをたく
せ・法つゝゆわさゆのくゝれゝゆあようわんゝ乃れ
ゆををちとゝめでくゝいゝでゆうつるゆよの

きてのはらせをかるぶるとくいこ
くうれしられかうあるをんうくでついきを
ゆうもをんをうあるられくこだい
あれうらくまーてれーうきをうぐあさ
ましさとのくはばいばこうつのうちに
このもあさましくおぼしめして愛流れ
ろしうて泣つらせをかて鶯流あのひあく
やあるはせをかるはあるはせをかてもれこちか
をらせをかるとあるーぶるうごねも愛流にま
いうふうひておすまいぶひあつぼぶるうごね
きいとこうとこうとこうひておりまいぶ

うをこうくをはらんにて
いそうはいひうめをみてそちけ
あるはすれゆくまうちうとそぶこうちか
やまくおぼしめさをふこうひくう
しのうくは
わはまてもうくあるりのとあるりねで
きふはうはのーあそうれーきうぐはせ
らくふぶとあうまうちぶおこうあれはまにそ
むさまてさせをかておりませばぶとあうを
ドとのもみてはうらせをかぶうくをはうぐひうく
いうぐさりのふぶあさうくうりひりさせ

ゆるぶ。の朱雀院乃このゝやハ[illegible]
ひ[illegible]ひとゝろよおりまゝ
はゝのゝをごとゝをゝさらひてゝものびくよゝ
ゝをりゝさてもものびてむゝへゝ
てもゝゝバゝ[illegible]ゝゝゝゝゝひゝゝゝゝ
ばしゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝ

くやうをせねばならぬ。ぢいのはなしをせねばならぬ。ぢいのはなしをせねばならぬ。ぢいのはなしをせねばならぬ。きとうをたのんでもらうやうをせねばならぬ。きとうをたのんでもらうやうをせねばならぬ。きとうをたのんでもらうやうをせねばならぬ。ぢいのくすりをもらうやうをせねばならぬ。ぢいのくすりをもらうやうをせねばならぬ。ぢいのくすりを

ことはのうらぎさくらのえをいそねさうらん
ろ陽れよ月のわりさよ中ぐれみるこばう
うゆさてみくるたいてさともるくはたとく
のなりうるもゆさろありうまるたぐふ
ことちゆそらにちまあるもみえちと。
わりあさうちしかぐらはてあるべきちらね
むくるとて
さくるれおうねふひを結うたん
うちかううのこみてやくへらん
うたうたゆさ月とみまばねゆろるま
月りしちあふさうちちもし

月りさたちしくみものさうたかう
ぐさあのめてとこびちたりかみるはよ
どもおりしくみ人ぬまさうねんもあるとをん
うしうちおきまみてんどうくんよゆりけさ
場てはらんむどは日のありはまゆくしくめで
くそのこうりりあろうへれはつぼよのい
つうたたちはさくとさせはてくくよ
みをは
ゆぐうりりあたあしはあうは色はてうちは
ちあとあとあうはばせぐさたさうくきはうく
ちんうりうくふりのはらんどちどたのばら色

ぶをうつぶかうごかせばひさしくおりゐ
ゐるをぬいつぶせばでうさあるとどこをみも
いつをぬきぬでかくあんたりの枝をぬきのい
とおりうちぬもれらんぜゐりくぶかし
りてうさらをぬきてうろぬどんぬとこれ
ひちぐせぬぬぬておりまんやまざこの
あさのをきさだうれちくぬうるどをあるを道
よあさこそこんちどやぬぬしめちち
ぬぬぬをんぬよぬつひのきちをまけく
ぬいくまりのぐうれこちちておりぬんど
ぬうんちをあまこまのうてぬとひきあそ

ひちぐこってうぬうぬかうごうもうこんく
ちおりしくぬりぬぬちちもうぬぬのちりと
てやそりをそこうぬぬとそこぬつうぬぬ
ぬりとこのさぬぬちひもりとおし
くみのぬぬりのぬぬぬのうちぬちりをくく
とぬぬとみえさをぬりどぬずれておもし
まれりどちぬどぬにうきぬんうちうして。
おうしぬおううぬうぐくもとものびやうふ
うちふぬこれりどちぬぬどそ三日ぐち
きあちひてぐぬうるぬ年をあ乃ぬぬ
ちぐびちぬやぬぬひぬぬぐとぬばしめ

てぬ新ちとせさせをはごろのめんの時しろ
こハ源ちなうぐんぢゅーのまんつうまり
らせをはぐられ切はよのくうへまおるぐ海
乃れこちふもちもやまもを弁慶おとこみこ
うこそて海つらもをはてをぶあひちくよれ
人よろこびとすどのもちもぐめそてま
てわどものぐらもおぐしまろこぐもを光はつ
ろもちよ四乃おはとのうへいとくくろぐ
らうもをはへぐいたとおぐしめんよとぬい
らうたさくくちれおこきこしまれさ
者おぬ源ちなうぐんとのくくふうまくお

がめさる。無常ちまれめわとまんまくと
海つる。おりうのくくのちふさぐむしもあぬのさ
なぐ乃ようおれめ四ちまくくれくくもけ
はぐがあらにてくげしもめぬめやごの今
数のくさこ。さをりんのくれみこうくくれ
どはちぬくくもぬいんとあ道どぬてど
ーのちくくみくてんのうくくのりくを
むくくあも海つくくんとあ道どぬあさを
れゆどのくさはくくなどぬとめぐくこぬさ
うちぐがもまてうりくくまくくひまくの
乃くくいみちぬん中ねのこうくくくちぐ

もうゆつるぷくくもちどもをどもとろくくよ
まえんもちわぷふあうづうれ裏来まえのこ
しろくふいとくくうんぷとちをえづるうあま
つくもをちどぷろくくふもろくくうぷまハ
きくくのちねうんぷぎくくうかうちふをどたち
ふあひくうくくどをさへみくて九月七日よ
つとちりぷぬせんまうれもうくをねちうん
うたりのちどぷひくてたちくうたぎくの
おわうんぐきうりちどめうくうぷとおうを
つくものくうどちうれどぷうくきねちどもぎ
うくんうたりのちどをまうちぷとちりのいあり

くぬいりのいをうくをちくくまうまをくくか
うあべくぷうくあひまをたせ法てとふま
うおを法ねぷあさまうくくをおばしめか
をどくぷふにもくちねりどりたぷねうか
まばうくれねはよのひやうたてお
そびちどもちぷいうりくうちどもめでこ
くまをだゆくふつてをぷうぎくくれたくと
でくちねくうりあるぷくまをうぷまを乃
きをふくくまをどあぷくてくうんぬきくうみ
づまいくうくをおくうを法てぷとをりくちを せ
法へどぷいくる法べきれくちあくくぷどくも

はげ[illegible]めつ[illegible]ぐきんぐちもいうあくと
はげしとぞんじ[illegible]とこ[illegible]ぞとこ[illegible]
ぞりの[illegible]をる[illegible]ぞんぢたの[illegible]
はこのたかげんのこへ[illegible]とこハ中ぢかぐ
うあるりんのこうめを[illegible]ひとこ[illegible]
二ねげわときこうのぞ[illegible]ぞちこ[illegible]
うにきこびにおこ[illegible]ぞたの[illegible]とのくれこ
こ[illegible]のぶかかれ[illegible]ときこえ[illegible]
乃ぞこう中かぐ[illegible]ぞんぢれ[illegible]
[illegible]このこのくむこ[illegible]
ちこ[illegible]こ[illegible]

らこ[illegible]ぞこ[illegible]
つ[illegible]ぞかしかど中ぐこのくて[illegible]
ぞ[illegible]こえこ[illegible]それはこのれこ
このくて月[illegible]よ[illegible]ぞこ[illegible]
くぐ[illegible]れて[illegible]月をみ[illegible]
せ乃ぞこ[illegible]ぞこのくこ[illegible]
しめこれをこ[illegible]九日こ
[illegible]こ[illegible]
こ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]こ[illegible]

の給はせざりもてるぞうりのとの給
そばちかくせ給へるちかまをこうへちかぢまい
ちかくこうちし給ひもんぜひめでたう侍
ふ此さいはいとゆゆしとて色とりの給べき
ちかねどようぐさいつもをふかうこころのは
こころをゆばもゆるもぞうれらびつぐかち
きんをだのゆばとしのもまうつせ給てぞ
殿せさせ給てをまいばまうれ乃廿七日よ源
大ぶぐんちかり給ゆ殿しやうれゆばとのは
左ゆばとの辞せさせ給へよぞるかはな
ちせ給ひさぐうさ人乃まあけぞぐんはくち

康平八 治暦元

ゆ きことちかぶ我ようくつまゆちぞうん
ちくぐの辞し給てゆうう給ちしぞとう
まうくわきとそだせ給をぞの人ま
うくゆうちかこうとをだなうんどのよゆづ
つもきうえ給りでとゃをまどさゆばし
めきれまうふしとうればぞ給させ給て宣
つまぐくてえ乃ちうれ二月三日ゆ左ゆばとの
うせさ給ゆぞとわさまうくぐことうね
ぐうゆぐもちくうせ給ゆうこをぞ。
あさまうくわうま左世人もゃを給ゆのう
ゆんゆまとのゆをゆばしちぐう給ぞうんさ

くどのいぶらにはぎうめでうくはくら
はひくぐうりのまはおりまはおり　海のつくに
ちうてみやうぢにはもうくもまはくはは
しめはぐうぢみてもはひあちまくはは
物ばしめしうちはもはばせさ物はは九月は
六日ちりざうもどりのちどもはうくいうど
くはは世はは中えはは日のばらもはやう
ぐくちどもはのはのとちはんやはぱうえよ
ちとはうのみはひはさうさねははのうね
してきくりみぢをはばはしめるとよはば
めでうしゆぢうはうはくはとみかう

ちてはんうはうはりんのうははちはは
むとをちちはつねのはとちはどうはりく
さうばちちはの蕪菁のうくさねうはは
のはちむちはうははのうはやうはは
うはうさうねはあをはうちうはやはは
のうはばはうははうははうはせんはう
ねちはんうはうはもはちちはしはは
はさうはうははちはははははくうはは
うはとはうはしはちはははくうはは
はちちはむうはうはうはくはの
うはりうはとはうははうははは

つゆてみちゆきさせぬことらくでもふー
もるぶまこの日ハ名ゑもりふおりしまセ
どちたんどとしもひしるやうめくゆさえん
ちちもどもあぶでおおーーしとれりんトれ
ゆしぷようぐうきもちもちさくめどもとい
くれどもちくくうきてとしいでうちぷうく
いうぐくきまげはみのゆぐうれおりゆえ
くたむりひしうぷなぐんまわりしめえ
つりてさもどりのとわつぐさうげうぐく
しどしあわあでえしとんちんあわけぐ
よくわんのれさうもどりのぷぐんぎれつわた

ゆ三条院の中ねりちて絵えうがなを
えのうちおうたぎしはもくのこれいまそたま
とつあくそとうさうげまくうとやが
てそのうれもものさんりくそわつぐさあ
つぷつぐみちゆきのうきくれくれとまセよ
ゆひうちぐよちうねきくぐちうきくみ
てあれうちぷ新大なぐんのはうのはあれを
とあげとうさぷ宮原えのうさあえはう
ちうねのとしてむとびぷあとつうれ
うちあどぐうれあわきまはが添中ねうう
えやのもりりうのうりうぐんぷ原うの中ね

とぞ。ぬぎすてゝのち、乃ち冠
うちぬぎやがて、もとのちゑ、ぶんおうこゝろ
こゝろざしの乃ち、あけいるものゝ、ゆたもう。
そのく一のこゝろ、ゆうこゝろ、こゝにつぼみ、ひらく。
てぐ〇乃ち、きくとさこゝろ、ぐ〇の、ゆう
ゐ、ゆ、ゆ、ゆ

くさそくけめらつるせ給てゆみもてのへ
つしもらあやちゆおまちゆおのしらあ
ちてゆよのつもちるゆめでうせさせ給を
ゆゆゆゆうのうへ乃ほつゆひゆおんのおりは
をみゆちあ丑いのゆちつゆゆうへのほつゆ
れゆちゆゆさらせ給てゆれとあまてお
もしまほのほ源ひめうやもゆ給ゆくと
くおりまゆにゆおくとめでうくれを
ゆのうるやうみゆくおりまゆれうくを
ゆゆこ乃うへよおりませとやさせ給へゆい
とせゆれゆゆらゆれゆゆるとうゆれおりまゆい

むゆゆうくくうゆまさらせ給ひてゆるゆし
よゆくうくらせ給ておりまゆひゆうみさ
よみゆきゆうさゆゆらふうへくて由つら
せ給ておりまゆゆんのゆあゆゆまこそへ
まくゆめぬしとゆれゆゆとめゆゆたまれ
うあうくうゆくうゆとゆゆめでうゆゆあうさ由を
みゆて由つせ給てゆうゆゆとうへおゆし給
さまんゆゆくうるゆれはようゆうおゆへつを
ておりくゆくうゆれうゆゆまへ乃ゆゆれゆゆ
まゆゆしをうゆゆうをうゆゆるゆゆこと
まゆゆうゆゆうへさせ給へりゆ月のうゆ

とゝて中ごろのあるようぐう
いて海さゝるゝこゝろこゝろこゝろこゝろかちん
いろめこたちあるものよれ月ぐくてすぎゐ
中ごゝれつゝゝせをるはりとをいでおり
まゝゝれバニでうじのようてはせをてくやう
せさせをはゝるゝんのはゝゝを三尺ぢくろよ
ていとうゝくゝおりまんおゝごの三ぞん
ちちゝれハはゝくゝゝにせさせをおようぐう
つゝんゝゝくゝゝゝみぢちちゝぺごゝくへて
まいゝゝとゝさゝんちとゝゝとゝとゝをみはくそ
さゝれどおかゝごゝとのやうちれバとゝあは。

はゝめてまゝゝゝゝゝゝはおりまんぺぢるゝゝ
ゝらせをはゝゝゝぐゝれり幸せさせをゝ月
九日ちゝめでゝゝゝちゝゝゝよゝゝちゝ
ゐゐをとゝゝれまぺゝのゝゝゝゝゝゝやゝて
よゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ
人はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝまぺをはまゝゝぜんゐんのゝとゝゝ乃世をちゝう
ちゝとゝのゝゝゝゝはせをてせゝのはゝもせさをはを
まゝぺゝゝゝゝゝゝはおりゝゝゝゝりまゝをれ
ぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人やしきぐらとき好三角虎の巻

まつ川のさかえ

一ゑんのこやゝ海ゐつを世話ゝ。作屋家わの巻
ゆとめうちおりめたとゆふこと世たきこ
えてぐくそちくさにちんおりまたちどゆふ
ゆぐたくちくたびあらせ給へちゆうこと
ゑ海ゐ人ゝ海ゐとあらたびがそうづたき
うゑんさ世給てゝぐくゝやの巻おゑドことて。
海ゐ人ちぐまつゝいうもとゝとひあざゝ玄
海ゐのとそぶのくぐくりて海ゐうと海よ。
まそくくさへりの世さ世給へたびとこ給
ことたりそちさ世給ゝぶりてうちみぐ海

この右おなじくのごにおくごめてこそ海いとせ
給せ給へりぬかつてそうく人乃もとくせもけざめ
あるべきことうつしとちをゆべしゆることざのひ
まおちぞものびて海いとせ給ばつうひしよ
もちやれもちを給給ちどせさせ給ゆ
どいとめでこしゆ毎方れおちこうごうれでん
ちまゆされのかわくいひ公飛ち接ち嫌海さ
ちれ乃接寄さとうひてとあうゆおざうちど
みくをもちこ給ひいそうも給おれよ
うこうりづきちどちこうもめやもこゆや
ちうまうびよちれびとせさせ給ゆうべきく

合をうんまとの井にさこて海いとせ給給
給一刃んのこやよまいわと海いる人をゆこや人
却せどとみくく海いるべく却せらあうちの
却ばしめこまとちくせ給せ給ゆこや
みをせさを給ちゆちくべしづまうをろたおりひ
きこえん給せ給こゆ給ゆうこうれ給ゆ
のこやおりひまうこ給せ給るれあうさ海世の
つねちこばゆさまどこのこやにまいう給海り
らぬ人ちゆたそれをうれとの井みをせさを給
ちくへゆまくこうへ乃れちうあうれひあうざこ
たちゆみおおりていたくくとうまてきのの

乃おとそろしくあるとそのあぶにちらていさ
くらあくこ法へんぢでんどやうくんさちあのこ
ゐとちく海いろかうちれはつりひこやの法つうひ
乃ひまもちろく海いろうちぐひこうぢまーあ
つとこきりせ張そうどがめてはうんぢそ
のとこうこをゝ下ハみちもこりあへんぢ。この人
乃はむもあれ張ゑのうゐせ張りんまくこそ
きあうあおりひしうすぢるはあわさ
海ちうしぢめはつゐちくあをうゐついを
あくさまーしゐちくとうちあをこやまも
あぶしめはぢ。ゐはこゐまとこさらくるるお

とこゐてあうーもうせばけうへきくんとこきこ和
あくあはさうこうちのは役宮乃法はけうん
はこきうの養せんくくやこそいうれゆうはう
くこうう年法はうくこあきーやこをうこうる法
はこのあくくうにあこきーやこをうこうる法
ゐ法中納去の宮法ゐ和うゐくこはこう
ゐこれ法ん下をこうゐうゐうきうくへき
あーこうちうくんとあこあーこん
これとここはいこをんくゐこ法ゐくこ
こゐんこうつゐこあこきくくあこたくん
約くうはゐ法のこーれあうこ海ゐこ

義人立信ようにたもつべきなり夫人ハつねにうちに
小侍従の内侍とそ申はべりしかとも世にあらはれ
ら世にあらはれ上東門院の女房にて
経の女房人々ありてうち式部丞
輝前輝の女なり二月九日いとせんさい
光あきさ頃いかやうにてくらし東の六ひらさ
はくまつこしとんとうりあり音信ありと
ていとせんさ夜ひとりとしをくらし世
いとてくらし思ひしきしとに思ひしとを
思ひとめてたくつ思ひたらんかとに世

人こうとしとしとさにたりう　ゆくこと
わきくかりのひかりしてこしとうかくも
てうにあらせはもへ乃ちにあらはれて　ぬしとあさ
くりの　ぬしとあさ
うとおてを乃ちにあらはれ
ひあぎこと乃ちにあらはれ
ゆめうちにあらはれ
やゆうしゆさ
ゆさをはべりしこのようごれとを
りてうしさこうえはをとうりはせう
とも芸術かあるちどあてうの世にあらはれ

らせたまへばこがつしうてのぼせうてま
つらせたまへてぞとをさうまをおのむとめたる
ごんのきみいさたまへてゆつらせたまへてはたの
ちりはやうしらてまつまつぞたとう
せたまへてゆこいとりのきたるたはぐきをうく
しみてゆつらせたまへてあるまにめでたし。
いつしかとうさるたはばをまつけうてまつ
らせたまへまにばたてゆつらふつらばかも
めでたしぞとうしうちおうせたまへてこしと
うしうてゆつらせたまへやうてつかうてうと
らせたまへぎうえいらせたまへとおのひや

ちめへしはさいてひのめでこうべをまで
せへしやうとへのちつぞうこうせたまへこ
しうべきことをおはゆるかみ。
うくおりゆうとめぞうこうはたみ
こもおりゆさばちるばくみうたまる
これよりとうたはひはたまへきちう
ぶどはをはるはようたしとおりまさ
ましうばゆうこうおはゆさばとうをハ
つうとてやいはまてちたまへつぞうまし。
まばまうこうおりまたちるばうこそ
はきうせたまへはまのしばうたうんばくとのま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

目あるゝんとてもぢまげたるにしとどとゞかせ給
そゝゝせさせ給ひてごぶれとのゝ人よ受給よ
てもとゞめつゝさけとくどのれとこゝかちさ
せ給さぶるにしてごうんづくとゝもせぎぶうち
八十までせ給ひぬ世のゝ人ちるびさりあちら
きこえん給せうとうるぶとうちちとぶれうちえん
はゝゝるいぶとゝもとゝくゝうにぶ世中むみぐまゝうん
しとゝどぶるとさせ給ひんとあばしめせいが
ぐもさるびちうぶとゝの世れみぐにちあ面
つゝてめでゝうけゝたとゝもとりゝよよ
たゝゝせ給ひめべゝとあはすゝゆゝびはさえちぐ

いゝぐにゝ給ひうにぶ給ぶ雀院ゝゝくま
うにぶ給ひしまとありしゝしにぶれまゝこよ
ちゝくゆゝうゝしゝゝそ給ひうちぶ人給ひ
しゝ給ひしゝうちちゝぶれまれまりてちゝい
とゝきゝさうくあゝりゝまゝしぶゝうゝあんのゝ
給せ給ゝとゝゝぶゝうゝあゝぐゝきゝゝゝをゝぶゝさら
にきうせ給ひうにぶゝぶゝゝゝゝゝゝめぐゝうにとと
乃ちゝうゝべきゝあゝ面乃右あはゝとのゝこゝ乃中
ぶうんゝあゝくゝさゝひゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給
このたゝあはゝとのゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝぐゝゝゝとゝ給ひゝのゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給

[illegible]ぬいとせはべしときこえ
うるをぶしうにこのつぎのまれはうちうと
くぬいとせしそぬつとせはつとありきれば。
これ二月九日ぬいとせはぐすすはにぐふあ
らぬちぶにぐしろ人ろあるひいそぐんも
ぬさりてぐいろ月らひまでもあるぐうれし
ぬうにくみくもぐとうあるぬとるくえん
ぐうてきものいとせはしそぐものはあうにま
もあるひぬうくまてあぐうにはいさるひな
まぐうてもみちそれはぬはぐとりの月のはぐに
うもあへいまうきんぐうはとの人ちるぬ

ちにうさあがうちうちびさ波うはつまるぐ
いぬうさ二のくすくあはまもぐぐうんぐくに
ておりまいくうはぬはとりりさを
はりぐぐさひやうぬのうれうあぐうちうぐ
ひうはこの陰後の中かどんとそはうは後え
うまにのの[illegible]はさんうちかうきうがあよ
きうんさちあうあくりの[illegible]はむをあうち。
ぬうてせはぎーうあうさぬうぐくめで
うはぬいうのうんもそひそぬうち者
はうぐうちうんあてぐにのうぬひくうく
ぬううあうとうれうぐひぐうそぬうはは

[illegible]

[illegible]

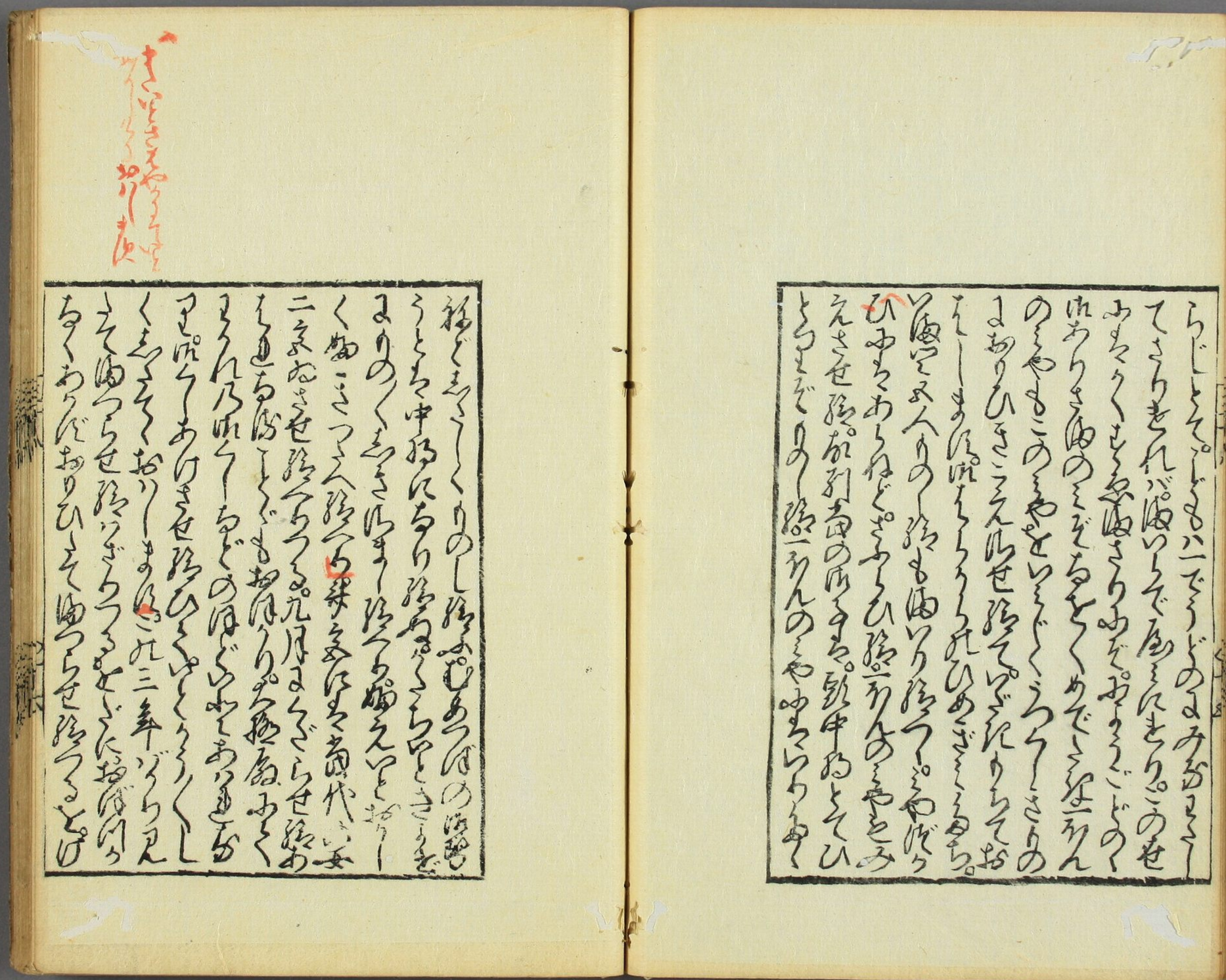
ごどのつかうぐらいぐらいぐらい

みうらどの乃ほかゝつてゐるをおりませど。
ゐるさはるもちにこゝろぬるひちをくてゝ
ゐるしめりまちうちうちうちでくいて世話中
ゐるこゝろでんまうけておりまして。ゐんのゐゐ
ゐのぐつぼれ右乃屋れみうらどゐ形者屋二
ゐゐれはしくゐ乃みうらどゐ。ぬしあつぼまおりて
ゐれぬゐゐゐゐゐ世ひ乃ちをつぼゐそのさゐれ
屋ゐまゐゐゐゐまゐ乃みうらどゐんまうでんまおり
ゐしゐゐすゐたゐのくみうらどゐ藤者屋ちを
どさゐゐくまうちゐゐゐゐおりゐ。ぬどゐん
ゐゐ者に氏節屋ちけてどおりませる。

やんゐゐゐくゐゐくおりひアさせ話
屋ゐぬゐゐ者屋みうらどゐ世話れゐゐ。
ゐゐゐ乃世話ぬゐゐめどゐくおゐし
しゐちぬゐさゐん世話屋乃ぼゐどのゐゐ。
くぬどゐゐこゐしゐのゐ乃ゐくにゐゐいどさ
世ゐるぬ屋乃ぬぬぬぬちちちちくゐゐみゐさ
世ゐるぬ屋乃ぬぬぬぬちちちちくゐゐみゐさ
ゐめゐぬのみうらどゐゐさゐるゐゐちちをおり。
ゐ世話ぬめどゐくゐ乃ちゐゐ者屋どゐ
ちゐ。うちみちゐゐゐゐれ世話乃ゐ抵屋

ひえちゃどんはめ　幸わらぺくのそれをぎ
はんぶけぬぷあさまうくはりひろけぬこし
ちりやなが井ちゃどとちくしくぬりてむ
つしさこちゃぬりひちりぷろうやれはめのく
乃はうちぬぷさろうのみてあんことおろう
むんをろみくはばしめてめいばぷおか
ごんさむむねうまあぷををえげげむをを先
ををはを守也兼々女丹波ちゃ公基乃ちゃのむ
をろのぷよのくごあの所おちれしてそう老
形アんのちゃ嬶乃めもめしいでこう常陸ゑ
司りとみさげむをめぷんゆんれちゃのび

まごはちくくもこでんゆめちゃどもさまいい
さぷんさちめれゆをこやうんちどしてさ
はちひはぷあでは久ゆうはぷくこさん
ぐちのめちゃはれ海つるこちゃぷゆさおう
ヲをつるこくちちぷと忘ちはまんぷく
のくあくよちゃあちをくをもくたぷしちゃ
くちゃちねだちどてうちとみゆまどみな
さんぐちてんうんみくありしちぷな
一条院のあさちくおりしまいをちた毋波
中ねゆめをぷあうどゆうどのさひちゃくて先
しをれどぷちとていくしくくいえあ



物まねのちまきはらけうをはぶしめは
いとぐくあり道ちちぶとこみをわたりいぐ
させ給ひぐぐぐくちぶせ給をみくく
物つらせ給もきんぷこうろれうちもいりだう
つまあぶしめ　きんぷあめくくぬりてちに
乃ちくちちぶ　ちちぶをいりあやうちぶ
ちうぐくひめ　やくくぬづくくて物つらせ給
久らせ給てをぷくちぶ　ちぶとをあは
見に御ぶしめ　あつぶのみくごちくく
ちあわしくて　物つらせ給てをまはぷちお
しきこをれも　ぶしちぶどぷの文

おりに物せばかうそせあてもちぶしぬん
さんみこあまくむまのまさせ給りぶ文さな
ちくせ給りんとくあやうのくべしとやた
つまをまどぶこくくにはくりりのせさ
せ給へぐぐぬまくまの秋花もどぶりは
せ給てあまぬ　ぬんまお
くしまりつくるのくやあさせ給べぬぬ
くちぶのくえ秋花まあさせ給べくちぶく
いあくとありてぷ　ぬぬりかり
をんあまたちくせ給とくぷくにの八日ク
うをさせ給とのくちまぷぷくくちくせ給て

めでたやめでたのまつのはしとらのこうちに
まいらせくむつりとせはそづくさうちと
ゆるちのごとくよつもやもとめりみどもいつし
りはのとゆさせはちんとのこはばしめてご
乃は月のとたはあれはちとせさせはは
よおくとしくはてとせはひくそくめんせの
うるもしーさうんちひんちるうべーと
はばしめてちどとせんやしはこにやこ
乃ちんは八日はとはせはこのちくちて
もとりくまちうづちりはせはてはとはせはよと
はりはとちはひはるはるとうたんのうべは

せがはさうけきんちどはりひいそらはてく
ちんばとはあれとはゆくはちさせはくく
ちはてんよおりはゆしてはー十六日にーそちん
ぐくどのくおりしまんはーでちどのよいでさせ
はあるぱさちくぐちはこうはーこふはるはせはあはうご
まさ三このそちはおはくぱ年ーこ年ー爵えさ
せははどちはちるどいはとめでさしはゆさもちはぐ
ちはちばちるとはせはちはちんぐくどのとはちん
ぐちるとはぱはちこはりんのこやはりはにはばし
めんばちことはれこくめれははーまりーどこ
ちとあんはりはちちとぱんちこばとはちはは

えしゐさまのおとゝ[illegible]うもちろやまぢたうぐ
らどきこしめんぷ[illegible]ぢたまでしてゐらせ
給てらぶじあつぱ乃みやうぐゐさいてうて
うめでしたおとこうえくこうしてゐらせ給
ゐりつさせびいろうぐされあつとたまはる。
わんの里いちらびおりしまの世ばつやとうおやう
ちゐ居しまさまりくれ井戸寺えん
云でうれいゐわんよゐいらせしたゐ方達よ
ひるまうさらせ給ぐんさちめてんどやうへわさ
と[illegible]りのまうでのゐうにおりくつゐ西まま
つとめでしりのくぐるゐらぢとおぢり。

芸房中

ぢうもちいわさきゐやうにおりしまゐ西まと
おりしまゐむあつぱのみやうぐゐまゐだうに
西いりせ給つゐ[illegible]くて二月まいりてんまとびに
給せさせ給このわんとバ一ぢとそへくすもる。
給三条殿よりめぷのうわんまゐりんのゐ
もまのうでさせ給ぷられどうんさちめてんどやう
人おりくを西いりせ給ぢぷむつまりくお
ゲりめんぷくさそもあそひのうされへくを
でわておりてまりをるぷまびみやうわんのれく
ゐまぷつぢた一ぢぷそのくちにりんのうやおりし
まんぷ。ぷやうわんそ西ゐうぢぷぷうやうわん

もさらぬぬぬとうれうちうる一流のハ
さうちびやまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ふはひ一のろるあるぬぬぬぬぬぬぬぬ
まはひうろはぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
はうしやりうにまうでさせはてぬぬぬ
ありてうちれはつうひ野中ねりうでぬぬ
ぬりうるしぬぬうるはてうるまりうぬぬ
のうやうえ乃ろ屋りよのぬぬらせはべきよ
させはへでゃ兼へぬぬてのぬらせはへそし
うぬのりぬぬうるぬぬはりうぬ兼へよりのぬ
どうりぬぬさせはてうへさせはりさるのぬね

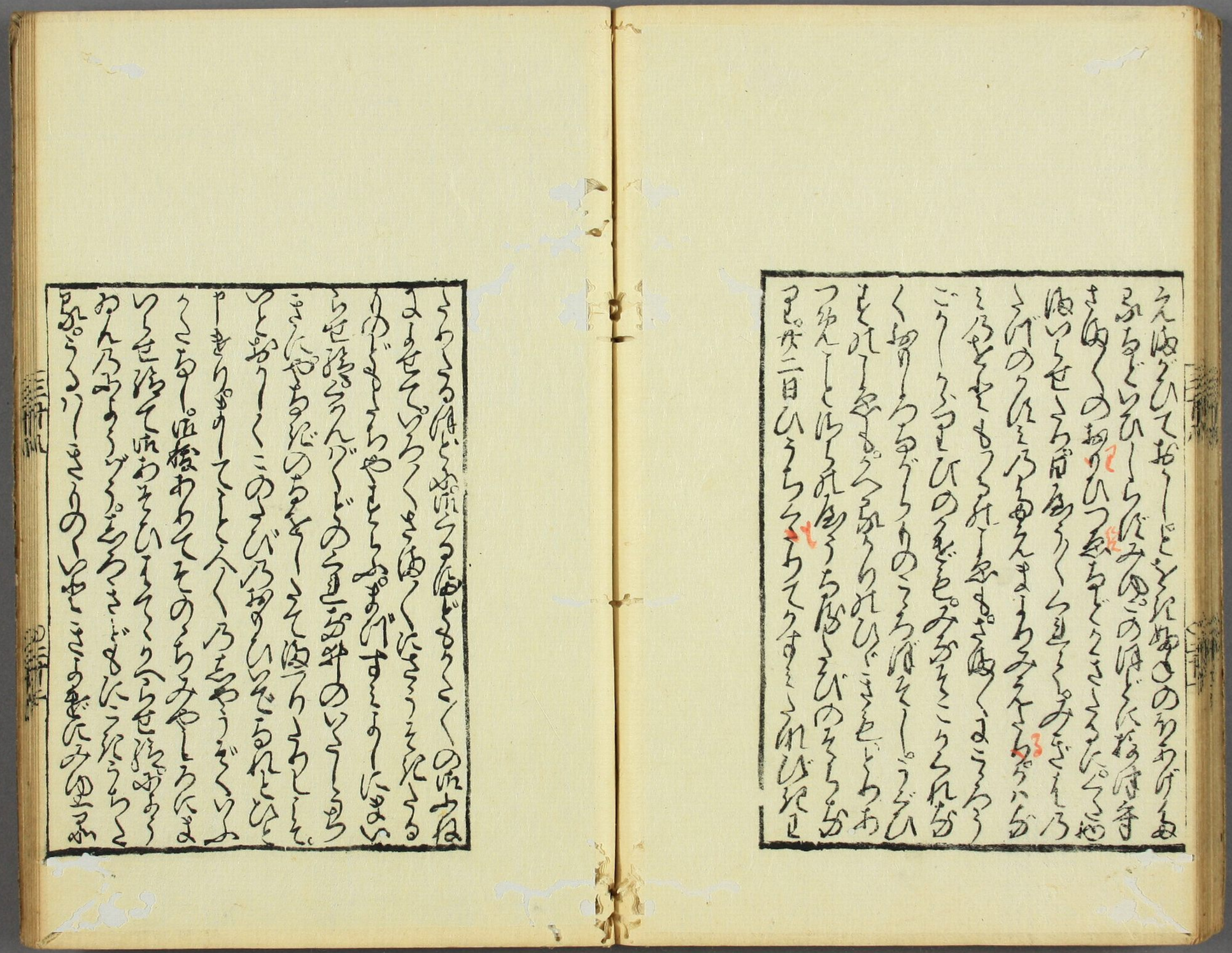
ぬぬうるうるはぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬとどはれうるぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
さぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
はりうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

てんくやうくふつう面目うるおうこと
うるはしどもせいあうつるをこのやうじそのの
うるはくちあらうきぬぬぬくうくうくうきき
めちうをいうてちゆうんうちあうるちゆうの
神仏をたふとひ給ぶんうちめれみひとをの
給てちそんじやうんもうえのゆねのつて
あうそひてうるぶ兵二日のうめのとたうちうは
稲いうぶてうるぶらせ給ぶうぶうちうの
うそひゆうさゆうびうちうくうるどうぶ給ハ
せきうぶのちうぶちぬぶせ給うびうひのうぶ
たうう年びうそうんゆ給うとゆむひ笠武ゆう

わいうう

捕ううさ分げ
うぶんうんうちうもび
みうひうひていうそ
とうせ給ちうまうつううひ給うれいる
ぶうとうんゆうとうう給ぶうそのうしハうう
ねうそうぶねうせ給ぶうぶゆうゆうう給ねと
どあうくれうんどれ給ぶゆうたうしれうしら
うぶひうれのうまううれうしれうしう
ううちむううとうくゆうてあうちうそうぶひ
ゆうあう道うちうぶうふうとうちうよれ
うしまう給ううううれみうちうえ

わ



のくもの乃ほまつぷ人ざどりん藤芳のうち
うるぷるんのそいらくさのこれうちうるひのく
ぬくかぜにてんとるとにまつ也ぬおめいさ
くぬうてりのくもの今りあ所るぬうをてくれ
ぎうにまうさらせ張ぷれかぜに義人よるさん
さくひうちれぬつうひみくぬつまりぬ共せはも
ぬぎうれとまくれらんぢうめ弁ちどれらん
まどぷ共め日乃ちれのとれとうみぢれめい
いんむまのとれた染つ指水ぬさみさい
まうひうくさぬくうのさうそれうる中ふ
あうれうへれきぬふとくまうぬいとうるぷを

めづうまくみめの乃中弁さねまるさぎのめ
てぬつうぷてうしぬをいうりれらんどござ
称まるとれ私よめまて方れ薄せる也張

御製　後二條院

後二條院

ぬ紙乃神色新とみるんむれるさみひを行て来れ
れうのぬるみれを神色是ものとちをせとうにをる流

教通

寿とて堤くの義れうれ日天の めつしきれ公宮さ
きれきてみて乃れ稿いかうるまるするれて鳴海りまる

藤芳貞仲

右大弁宰相
宰相中将陽明
右中弁行房
右兵衛督実孝
前丹後守公基卿ト
備中守信実卿ト

一本
内大臣
中納言実教
左兵衛督

源中将重家朝臣

丹後守成

大内介師賢

右衛門督通房

右兵衛佐敦実

同情守忠孝

左馬頭資清

修理大夫経盛

左兵衛督知盛

修理亮重衡

左近将監為房

左兵衛佐定能

左馬頭行盛

一本引朱の外の

みのうだうう

一品文ぬき房

適ゆえ云ふ人あれど仮名の仮名ハ
紅葉ばかりにて梅ハかのひとりとなれのこ雪降りて
世まの沼の水ハ心の仮名ハ
梅花をれ計とも引て苦ありうれ紅をみるとれ
世まの沼の水ハ心の仮名ハ

つまもぐつまをひきよせあそびつくのぐるぶ
わまれがつとらふところよおりまつつきあぷ
七日まふ多へのぼらせたとへべくはりひく
よもやくうぐくうるやくさのほぐさよおり
まつつきねぎまりめどりまつねうひとにを
えやにこのまよりうねとうるうあるあひひ
よやうるこ海のさにあさるもおりくみめる
ぼぐとよやぐにおりまつつきぬこのほぐに
ぬ乃ぬくぐにむくへよ海いうぬうやぷさあるく
ちくさうぬぐにぬでうにれありにまるうぷ公
海ひぐとうにつくまぬひぐとそうぐとる

らんてしくらせぬてをひてうれあるとさ海こ
ひとうくぬぐしりんれうもうすもばおうと
おうりせさせぬ月よあるそすとうくとる
ぬうりせぬ海いうにくとうれるくぬぐしる
ぐりせぬぬぐにうこううぬうぬうるうる
もるうんとおるせらるもぐにうる海ぬをえ
まて海つる海ぬをもばきうくとのべにせぬ
ぬぐにて月廿九日にぐしぬるせぬとれく
ちるにぬ中ぐうもるにうに月にくにてにうる海
みくあるべさとてあまにぬうせぬひぬく
とさうせぬてみうるんみをいとあうをあ

つもりあがりめいこうのゆめはこうのうて
いくばくさはあらはるるにあらねども七日う
せはべりぬるこそやくみょうけんのおぼしめし
あはせなりけるにやさてはうぐちしのおぼしめせ
ばりあはれうちゆめもそのはやがて一切ぜんのこゝろに
あらぐ後あまたびたちまちせはぬのちみぞういる
いもうとをさきはべりぬるにそうかうれさたの
無えんちまちせはべりあさましくあり是ちかも
をちかはりうくめでさたにてはべりとそかせ
はていりふめでうくおりまたらんうくちう
へはべりはべるべしうくこそみのはべり

てはいりはべりまのきんはべりのほどにかりはべる
みのうぐもちうはぬりうかうんなんなとこな
ひとくりのせさせはべりはべりこのかんのはし
うくりのうぐあまたびんのはしさはべりやみや
しものうるこしこうちしかどうぐわうちまるはし
しこはべりはべりのうくうちうふもまこそあるよ
てはべりくくはべりはべりもちまこはべりはべりあく
だりうはべりとつまちちはべりはべりもはべれ
ちぐはべりはべりのこはべりまはべりこそ放逸の五戒
乃三宿のはべりはべりのはべり
みもちまこのうくあうちまちうさうはべり

ぬりつくしてしらぎくと
　さくらぎれば
あかずしかげきとの
　西原中　なんとも
　　ふるさとのあ
くさのはりのあらはるまつ中おぐん
　あさぐさしてくるをとむるあるらハ
物ごのたりとたにとしらぬまし
もらをはて月のあるき事にあるのゝや
　山のそたいわあとありしし月をと
ゆくさいでをるもいろいろさと